

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ままはぐいわき事業所（児発）		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い人員配置：お子さまの状態に合わせ、基準を上回るスタッフを配置することで、微細な体調変化や行動特性に即応できる体制を整えています。	情報の即時共有（朝のMTGの充実）：送迎や記録業務で多忙な夕方の時間帯を補完するため、毎朝のミーティングを強化しています。前日の振り返りを確実にし、その日の支援方針を全員で一致させてからお子さまを迎え入れています。	振り返り時間の捻出と効率化：記録業務のICT化やフローの見直しを行い、支援終了直後に短時間でも「多職種でのカンファレンス」ができる時間を生み出します。
2	個性性に配慮した環境づくり：集团の中でも広いスペースや2階のプレイルームを使い、お子さまが落ち着いて自分のペースで過ごせる「個別の居場所」を確保する意識を職員全員が共有しています。	発達段階に応じた環境構成：集中が必要な活動の際は、パーティションの活用や場所の選定を行い、視覚的な刺激をコントロールする工夫を行っています。	個別プログラムの深化：スペシャルニーズの高いお子さま一人ひとりの特性に合わせ、より微細なステップアップを目指した個別活動メニューを充実させてまいります。
3	地域との草の根の交流：大規模な行事開催が難しい状況下でも、近隣のこども園との交流を通じて、お子さまが社会の一員として地域に理解を広げる機会を大切にしています。	アウトリーチ型の地域交流：施設内に招くリスク（感染症対策や環境変化）を考慮し、こちらから地域（こども園等）へ出向く形で、安全かつ効果的な社会参加を促しています。	「事業所見学」の相互実施：こども園の先生方に、一度事業所の様子や「医療的ケア」について見学してもらう機会を作ります。専門職同士が繋がることで、地域全体での見守り体制が強まります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の限定性：リスク管理を優先するあまり、地域住民を招くなどの積極的な交流機会が持てておらず、地域中での事業所の存在や障害特性への理解浸透が一部にとどまっている。	安全確保と交流の両立の難しさ：スペシャルニーズの高い利用者様の安全（感染症対策や事故防止）を最優先に考える結果、外部の人を招く行事に対して慎重になりすぎていた。	段階的な地域交流の拡大：「行事への招待」という形にこだわらず、活動の様子を伝える掲示物の作成や、現在の「こども園との交流」の頻度を高めるなど、リスクの低い方法から地域との接点を増やしていく。
2	保護者同士の交流機会の不足：日々の送迎時の会話は行っているものの、保護者同士が悩みや情報を共有できる「保護者会」や座談会の開催が十分ではない。	運営時間の制約と家庭の多忙さ：土日祝が休みであることや、医療的ケア児・重心児の家庭は日々のケアで多忙なため、保護者が集まる時間を設定することへのハードルが高い。	「親御さんのためのサロン」の開設と家族支援：「情報交換サロン」や茶話会を定期開催**する。同時に、きょうだい児も参加できるイベントを企画し、家族全体を支える体制を整える。
3	きょうだい児への支援の未着手：利用者本人への支援で手一杯となり、そのきょうだいが抱える葛藤やケアに対する配慮（きょうだい支援）まで手が回っていない。	専門知識とリソースの不足：きょうだい支援の重要性は認識しているが、具体的なプログラムのノウハウや、対応するための人員・時間の余裕が確保できていない。	「親御さんのためのサロン」の開設と家族支援：「情報交換サロン」や茶話会を定期開催**する。同時に、きょうだい児も参加できるイベントを企画し、家族全体を支える体制を整える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ままはぐいわき事業所（児発）

公表日 2026年 3月 1日

利用児童数 2025年 12月 20日 7名

回収数 6名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	4			2	何人で子供たちを見て下さっているのか、保護者にはわからないため	職員配置につきまして、貴重なご指摘をいただきありがとうございます。 当事業所では、入浴支援も行っているため、法令で定められた配置基準に基づいた人数より常に2名以上の職員でお子様一人ひとりの活動をサポートしております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6					
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	3				ご指摘いただいた通り、現在は体系的な家族支援プログラムの提供が不足しております。 今後の改善策として、予定している「サロン」の場を充実させ、ペアレント・トレーニングの視点を取り入れた情報交換の機会を設けてまいります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1		4	1		貴重なご意見をいただきありがとうございます。 当事業所は土日祝日が休業日のため、平日に設けることが難しく、これまで十分な支援機会をご提供できておりませんでした。 今後は、保護者の皆様から少しでも参加しやすく、日頃の悩みや情報の共有ができる場として、「サロン（懇談会）」を定期的に開催していく予定です。保護者様同士の交流を図ることで、少しでも日々の安心に繋がる場になりたいと考えております。ぜひご参加いただき、皆様のお話を聞かせていただけますと幸いです。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1			玄関など、保護者の目に必ず触れる場所に「自己評価結果」を掲示します。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5	1			年度初めだけでなく、SNS等への写真掲載の可否について、個別に意向を確認する場を設けます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6			毎朝笑顔で行くので、安心して通所していると思います。	日頃より事業所の運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。保護者様からいただいた「毎朝笑顔で通っている」「お迎えを喜んでくれる」という言葉は、職員一同にとって何よりの励みとなります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6			・ままはくに行くのを楽しみにしています。いつもありがとうございます。 ・お迎えが来たのが分かると喜んでくれるので、楽しみにしていると思います。	お子様が笑顔で通所され、お迎えの際にも喜びを感じただけでいることは、当事業所での職員設定や関わりが安心感に繋がっている証と考えられています。今後も「ここに来るのが楽しい」と心から思える場所であり続けられるよう、一人ひとりの情緒に寄り添った丁寧な支援を継続してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	6			お家では体験できない事を日々させてもらっていて、本人の成長にもつながっていてとても満足しています。	「お家では体験できない事を通所して成長に繋がっている」との励みとなる言葉をいただき、大変嬉しく存じます。集団の中からこそできる活動や、多様な刺激を取り入れたプログラムを通じて、お子様の持つ可能性をさらに引き出せるよう工夫を重ねてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ままはぐいわき事業所（児発）		公表日		令和8年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		スペースを広くするようにしている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	子供の人数に対してスタッフが足りない場合が多い	お子さまの状態や特性に合わせた個別支援を重視し、基準を上回る手厚いスタッフ配置を行っています。今後はさらに、個々のニーズに即した効果的な活動が行えるよう、職員間の連携を深め、指導技術の向上や環境構成の工夫に注力してまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		バリアフリー化で段差等がないようになっています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		清潔を心がけている		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	・集中的にできる個々で活動できる環境をつくっている ・個々に対応できるスペースは作ることができるが、ひとりひとり集中できる仕切りが必要と考えている	個別対応のスペースは確保できておりますが、お子さまがより安心して活動に集中できるよう、視覚的な情報の整理（構造化）や仕切りの活用が今後の課題であると認識しています。今後は、個々の発達段階に合わせた個別活動の時間を取り入れるとともに、環境面でもハード・ソフト両面からの改善を図り、どのお子さまも落ち着いて過ごせる環境を整えてまいります	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8			長期休みなどを使い機会を設けられたらと思う
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	今後、保護者やきょうだい参加するイベントが計画されても良いかと思う。	貴重な意見をいただきありがとうございます。 当事業所は土日祝日が休業日のためご提供できておりませんでした。 今後は、保護者の皆様が少しでも参加しやすく、日頃の悩みや情報の共有ができる場として、**「お母様方のサロン（懇談会）」**を定期的に開催していく予定です。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		視覚で理解できるよう写真を使ったり、目の前で目を見て話す等している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	1	地域との関わりはなかなかとれていないと思う。	職員の車にもある通り、地域住民を招くような行事開催は、利用者様の安全確保や休業日の兼ね合いから現状は困難です。その分、アウトリーチ型の交流として近隣のこども園へ行き、利用者様が地域の中で過ごす機会や、地域の方々に特性を知っていただく機会を設けています。大規模な行事形式にこだわらず、地域社会とのつながりを継続できるよう、現在の交流活動を大切に継続していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8				